高志の国
文学館
KOSHINOKUNI
Museum of Literature

高志の国文学館 年報

平成29年度

高志の国文学館 年報

平成29年度

目　次

Ⅰ　平成29年度のあゆみ

平成29年度のあゆみ…… 4

Ⅱ　事業内容

1　展示活動…… 6

2　資料概況…… 20

3　教育・普及事業…… 21

4　高志の国文学館友の会…… 32

Ⅲ　管理・運営

1　利用状況…… 34

2　施設の概要…… 36

3　機構…… 37

4　組織…… 38

Ⅳ　資料

沿革…… 40

Ⅴ　関係法令

関係法令…… 42

Ⅰ　平成29年度のあゆみ

平成29年度　高志の国文学館のあゆみ

年　月　日	事　　項
平成29年３月19日	**大伴家持生誕1300年記念企画展**
	「官人　大伴家持―困難な時代を生きた良心」（６月５日まで）
４月９日	観桜の集い2017 in 高志の国文学館
４月19日	クローズアップコーナー「富山のうた人たち」展（12月４日まで）
５月３日	特別コレクション室「夢二が描いた『婦人グラフ』の女性たち」（10月２日まで）
５月20日	文学講座（大学連携シリーズ）（７月８日まで　全４回）
５月29日	**天皇皇后両陛下ご視察**
６月11日	**開館５周年記念企画展「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉」（７月10日まで）**
同日	入館者60万人達成
７月５日	高校生のための平成万葉塾（１月17日まで　全６回）
同日	平成の越中万葉－中学生短歌講座－（９月28日まで　全４回）
７月16日	文芸サロン（主催：日本ペンクラブ富山の会）（３月18日まで　全４回）
７月23日	**開館５周年記念企画展「おわらと林秋路―風の盆の画家」（９月25日まで）**
同日	平成29年度「高志プロジェクト」認定証交付式
７月29日	読書感想文サポート講座
８月６日	開館５周年記念特別講演会「詩歌の明日を求めて」
８月12日	アフレコチャレンジ教室（第４回サブカルチャー講座）
８月19日	液晶タブレット・コピック着彩教室（第４回サブカルチャー講座）
９月２日	文学講座（ゆかりの文学者シリーズ）（12月10日まで　全４回）
９月16日	朗読と音楽の夕べ（11月25日まで　全５回）
９月24日	文学講座（巨人の物語をひもとくシリーズ）（12月２日まで　全４回）
10月４日	特別コレクション室「新資料・翁久允と竹久夢二」（平成30年３月26日まで）
同日	観月の集い2017 in 高志の国文学館
10月14日	**開館５周年記念特別展**
	「宮本輝―人間のあたたかさと、生きる勇気と。」（12月４日まで）
10月25日	「高志の国文学」情景作品コンクール入賞作品展示（12月４日まで）（主催：富山県教育委員会）
10月28日	とやま室内楽フェスティバル（主催：（公財）富山県文化振興財団）
11月５日	大伴家持生誕1300年記念「家持の心のしらべ」
12月２日	全国大学国語国文学会連携企画　大伴家持生誕1300年記念シンポジウム「日本海を望む詩心」
12月13日	クローズアップコーナー　角川源義生誕一〇〇年・辺見じゅん七回忌記念「父と娘」展（平成30年７月２日まで）
12月16日	**開館５周年記念企画展「竹久夢二　音楽を描く」（２月26日まで）**
平成30年１月６日	書道パフォーマンス（３月10日まで　全２回）
１月14日	炉辺暖話（３月11日まで　全３回）
１月21日	第４回高校生による朗読会
１月28日	西村まさ彦プロデュース　大伴家持生誕1300年記念
	「和歌と朗読を楽しみ、童謡を歌い、日本語の美しさを知る集い≪小学生編≫」
２月４日	４館友の会連携特別講演会
	（高志の国文学館友の会、富山県〔立山博物館〕友の会、富山県水墨美術館友の会、富山県美友の会 共催）
３月18日	**大伴家持生誕1300年記念企画展**
	「歌人 大伴家持－現代と響き合う詩心」（５月21日まで）
３月25日	大伴家持生誕1300年記念　富山県・神奈川県による文化シンポジウム
	「文化の力と地域振興～富山県と神奈川県の取組」

II 事業内容

1. 展示活動

□常設展示

概　要

常設展示では、当館の収蔵資料を中心に、万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代文学に至るまで、富山県にゆかりのある作家や作品の魅力を紹介している。また、文学だけでなく、漫画や本県ゆかりの先人についても紹介している。平成29年４月には常設展示室のリニューアルを行い、作家の略歴等を紹介する大型タッチパネル、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当てて紹介する「クローズアップコーナー」、越中万葉を映像と音声で鑑賞できる映像ブース、寄贈・寄託を受けた作品や資料を中心に紹介する「特別コレクション室」が新設された。

＜ふるさと文学の回廊＞

富山県ゆかりの代表的な文学者23人を、パネルや直筆原稿、デジタルサイネージなどで紹介。また、回廊内に設置した４つのデジタル万華鏡では、大伴家持の生涯や山岳文学、富山県ゆかりの漫画家や先人について紹介。

「ゆかりの文学者たち」コーナー

＜ふるさと文学の蔵①＞

古代・中世の富山県ゆかりの文学作品を紹介するとともに、大書架「知の蓄積」では、富山県ゆかりの書籍や寄贈された資料を展示。

クローズアップコーナー

体験型装置「万葉とばし」及び映像ブースでは、大伴家持が詠んだ歌を音と映像で紹介。「クローズアップコーナー」では、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当て、半年ごとに展示替えを行い紹介。

＜ふるさと文学の蔵②＞

「ふるさと文学年表」により、万葉の時代から続く富山の文学について、その変容と発展を時代背景とともに紹介。

＜ふるさと文学の蔵③＞

富山県ゆかりの漫画家をパネルや愛用品とともに紹介。デジタル装置「不思議な本」では、漫画・アニメーションの制作工程を学ぶことができる。「特別コレクション室」では寄贈・寄託を受けた作品や資料をはじめとして、年に二度、春と秋にテーマを設定して紹介。

このほか、富山大学附属図書館に所蔵されているヘルン文庫（小泉八雲の旧蔵書）資料や、富山が輩出した先人について紹介。

「ゆかりの漫画家」コーナー

特別コレクション室

□展示構成

平成30年3月31日現在

展示場所	展示の名称	展示の概要	
導入展示	文学鳥瞰地図	富山県内に点在する文学ゆかりの地等を検索	
	ふるさと文学万華鏡	大伴家持の生涯や山岳文学の歴史をデジタル絵巻で紹介	
ふるさと文学の回廊	「ゆかりの文学者たち」コーナー	パネル	デジタルサイネージ
		源氏鶏太	筏井竹の門　高島　高
		堀田善衛	岩倉政治　瀧口修造
		柏原兵三	遠藤和子　田中冬二
		木崎さと子	大井冷光　田部重治
		宮本　輝	翁　久充　畷　文兵
		三島霜川	角川源義　新田次郎
		横山源之助	小寺菊子　辺見じゅん
			佐伯彰一　前田普羅
	ふるさと文学万華鏡	富山県ゆかりの漫画家や先人を映し出すデジタル万華鏡	
ふるさと文学の蔵①	大書架「知の蓄積」	富山県ゆかりの書籍や寄贈資料を展示	
	万葉とばし	大伴家持が越中で詠んだ歌を音と映像で紹介する体験型装置	
	映像ブース	大伴家持の歌を現代語訳、解説と映像で紹介	
	古代の文学／中世・近世の文学	万葉集、立山曼荼羅等を紹介	
	辺見じゅんコーナー	辺見じゅん氏ゆかりの寄贈資料を展示	
	クローズアップコーナー	「富山のうた人たち」展／角川源義生誕一〇〇年・辺見じゅん七回忌記念「父と娘」展	
ふるさと文学の蔵②	ふるさと文学年表	万葉の時代から現代に至るまでの富山県ゆかりの文学を紹介	
ふるさと文学の蔵③	「ゆかりの漫画家」コーナー	藤子不二雄Ⓐ	
		藤子・F・不二雄	
		山根青鬼	
		山根赤鬼	
		まつもと泉	
		原　秀則	
		花咲アキラ	
	特別コレクション室	「夢二が描いた『婦人グラフ』の女性たち」「翁久充旧蔵資料」展	
	ヘルン文庫コーナー	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）	
		南日恒太郎	
	「越中の先人」コーナー	安田善次郎	
		浅野総一郎	
		高峰譲吉	
		椎名道三	
		松村謙三	
		馬場はる	

（注1）ゆかりの文学者および先人の一部について、関係の機関や個人より実物資料を借用のうえ展示した。
（注2）ヘルン文庫の展示については、富山大学附属図書館の協力を得て、所蔵資料の借用・展示を行った。29年度は4回の展示替えを行った。

□クローズアップコーナー

⑴「富山のうた人たち」展

会　　期／平成29年４月19日㈫～12月４日㈰
担　　当／菅田智雄
出品点数／27点

趣旨・総括

自然に富む富山の風土は、そこに住む人たちやそこを訪れる人びとの「うた心」を刺激し、豊かなうたの文化を形成してきました。そして『万葉集』の時代から現代に至るまで、生まれてきた数々の優れたうたは、私たちの精神世界を広げ、富山の文化の歩みを支えてきました。

本コーナーでは、「富山の風土と育まれたうた心」「ふるさととのつながり」「富山湾・日本海を望んで」「立山を仰ぎ見て」「富山の自然と生活の中から」「友とともにうたう」という６つのテーマを掲げ、富山を舞台に生まれてきた名歌や秀句、そして「うた」を表現する場となった刊行物などをとおして、「うた人」たちの富山に寄せた思いを探りました。

「富山の風土と育まれたうた心」埋め込みケース

「立山を仰ぎ見て」展示ケース

⑵角川源義生誕一〇〇年・辺見じゅん七回忌記念「父と娘」展

会　　期／平成29年12月13日㈫～平成30年７月２日㈪
担　　当／大川原竜一
出品点数／26点

趣旨・総括

角川書店（現ＫＡＤＯＫＡＷＡ）の創業者で俳人・国文学者として知られる角川源義。この角川源義を父にもつ歌人・作家の辺見じゅん。

源義は何でも富山を基準に考えた人と言われるほど、ふるさとを愛した人でした。辺見もまた、ふるさと富山を愛し、晩年は故郷に関わる仕事に全力を傾けていました。辺見の文学の原点には、父源義の存在があったと考えられています。

平成29年は、角川源義の生誕100年の年であり、平成23年に急逝した辺見じゅんの七回忌の年にあたりました。本コーナーでは、角川源義と辺見じゅんの二人のエピソードをまじえながら、「出版人」「うた人」「学術の人」という三つの側面から、父から娘に受け継がれた思いを探りました。

「うた人として」埋め込みケース

「出版人として」展示ケース

□特別コレクション室

⑴「夢二が描いた『婦人グラフ』の女性たち」

会　　期／平成29年５月３日㈬㈷～10月２日㈪
担　　当／小林加代子
出品点数／26点

趣旨・総括

『婦人グラフ』（国際情報社）は、大正13年（1924）５月から昭和３年（1928）11月まで刊行された女性向け月刊誌です。読者層は教養ある女性たちが多く、グラビアを多数掲載し、木版やカラーページも豊富で人気を博しました。竹久夢二は、大正13年（1924）から昭和２年（1927）まで、18点の表紙を手がけ、挿絵や口絵、絵と文による連載「婦人絵暦十二ヶ月」も担当しました。夢二の絵は読者からの人気が高く、最新の流行をとりいれつつ伝統的な様式と調和する、魅力あふれる女性たちを色彩豊かに描いています。

本コーナーでは、東亜薬品株式会社より寄託を受けた竹久夢二作品約480点から、『婦人グラフ』の表紙絵や挿絵を紹介しました。

展示概観

『婦人グラフ』第１巻第４号（大正 13 年８月号）表紙

⑵「新資料・翁久允と竹久夢二」

会　　期／平成29年10月４日㈬～平成30年３月26日㈪
担　　当／小林加代子
出品点数／20点

趣旨・総括

現在、高志の国文学館では、公益財団法人翁久允財団の協力を得て、翁久允旧蔵資料の調査を行っています。本コーナーでは、その調査報告として、翁久允自身が保管していた資料、また、家族の手元に遺された資料から、翁久允と竹久夢二の交友を伝える初公開資料を中心に紹介しました。

翁久允は、現在の富山県中新川郡立山町出身のジャーナリスト・小説家です。単身渡米し約18年を経て帰国、『週刊朝日』の編集に携わる中で竹久夢二と出会いました。昭和６年（1931）５月、二人はアメリカへと旅立ちます。家族に宛てた書簡や、旅の出発前と夢二没後に書かれた原稿からは、旅を実現するための久允の熱意と尽力、豪華客船の旅と渡米後の暮らしの落差、夢二に対して揺れ動く思いがうかがわれます。

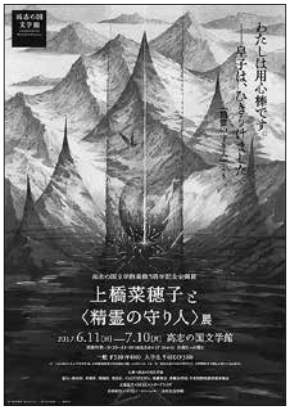
展示概観

豪華客船のディナーメニューに記された家族宛書簡のコーナー

□企画展示

⑴開館５周年記念企画展「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉」

会　　期／平成29年６月11日㈰～７月10日㈪
主　　催／高志の国文学館
協　　力／偕成社、新潮社、理論社、講談社、KADOKAWA、筑摩書房、香蘭女学校、日本国際児童図書評議会
企画協力／ NHKエンタープライズ
企画制作／ NHKサービスセンター、世田谷文学館
出品点数／282点
担　　当／生田美秋（総括）、菅田智雄（主務）
観覧者数／３，225人
印 刷 物／ポスターＡ１判　　チラシＡ４判



チラシ　表

チラシ　裏

趣旨・総括

2014年に児童文学における最高の賞である国際アンデルセン賞作家賞、2015年に『鹿の王』で本屋大賞を受賞した上橋菜穂子氏。作家デビュー以来、『精霊の守り人』『獣の奏者』などのベストセラーを発表し続けています。文化や価値観の異なる人々が織りなす世界を鮮やかに描きあげる作品は、海外でも高い評価を得ており、世界中の老若男女に愛されています。

本展は、代表作〈精霊の守り人〉シリーズを中心に、その卓越した物語世界を紹介する初の大規模な展覧会です。シリーズ関連資料や文化人類学の研究資料、語り下ろしのインタビュー映像、テレビドラマ、アニメ、マンガの関連資料などで作品の魅力に迫りました。

会期中には、関連イベントとして、挿絵画家の佐竹美保氏によるワークショップ「もうひとつの世界〈ナユグ〉を描こう」を開催したほか、上橋菜穂子氏と海辺潔氏（「精霊の守り人」制作統括）による「精霊の守り人」制作秘話をお話しいただく講演会、体験型のイベントとして、〈精霊の守り人〉スタンプラリーを実施しました。

本展は開館以来初となる巡回展で、幅広い世代の方々にファンタジーや児童文学の枠をはるかに超えた比類のない「本物の物語」の面白さをご堪能いただける展覧会となりました。

展示風景（導入部分）

展示風景（ドラマ衣装など）

□関連行事

① ワークショップ

開催日	講　師	演　題	参加者数
7月1日(土)	佐竹美保氏（挿絵画家）	「もうひとつの世界〈ナユグ〉を描こう」	32

② NHK大河ファンタジー「精霊の守り人」制作秘話

開催日	講　師	参加者数
7月9日(日)	上橋菜穂子氏と海辺潔氏（「精霊の守り人」制作統括）	128

③〈精霊の守り人〉スタンプラリー

館内、会場に設置されているスタンプを集めて、〈精霊の守り人〉の世界を冒険。

④ 上橋菜穂子氏によるギャラリートーク

開催日	講　師	参加者数
6月11日(日)	上橋菜穂子氏	68

⑵開館５周年記念企画展「おわらと林秋路（はやしあきじ）―風の盆の画家」

会　　期／平成29年７月23日㈰～９月25日㈪
主　　催／高志の国文学館
特別協力／林淑子、林章一
協　　力／越中八尾観光協会、富山県民謡越中八尾おわら保存会、八尾おわら資料館
担　　当／綿引香織
観覧者数／３,049人
出品点数／373点
印 刷 物／ポスターＡ１判　　チラシＡ４判
図録Ａ４判（120頁）

チラシ　表

チラシ　裏

図録表紙

趣旨・総括

おわら節の情緒と優雅な踊りで全国的な人気を集める「おわら風の盆」。この雰囲気を伝えるのに欠かせないのが、八尾町出身の林秋路（はやしあきじ）（1903～1974）が描くおわら風の盆の絵画や版画です。越中八尾おわら保存会の創設当初から、新踊りの振付けを図解で伝え、ポスターや絵葉書などを通じておわら風の盆の普及に貢献した秋路は、おわら節の歌詞の創作も行うなど、生涯を通じておわらと深い関わりを持ちました。おわらを熟知する秋路の描く絵と書には、おわら風の盆のもつ抒情性と洗練された美しさが余すところなく表現されています。

一方で秋路は、おわら絵だけでなく、美人画の模写作品、富山の風景や祭りなどを描いた作品も残しています。また、秋路の作った手漉き和紙は文化人たちに愛され、吉井勇や小杉放庵らは秋路の人柄にひかれて親しく交流を続けました。このほか、俳句作りや商品図案の制作に取り組むなど、秋路は多才な芸術家でもありました。

本企画展は、林秋路がおわら風の盆に取材した直筆の書画や版画、おわらの歌詞などを中心に構成し、あわせて、文学者や芸術家との交流のありようが伝わる書画や書簡、秋路自身の俳句作品などを通じて、秋路と文学との関わりの深さについても紹介しました。このほか、秋路の手がけた風景版画、和紙作品、印影や愛用品など、多種多様な作品を展示し、芸術家〈林秋路〉の全体像が改めて伝わるよう心がけました。

会期中には、NPO 法人 富山観光創造会議副理事長の山下隆司氏、林秋路氏ご長男の林章一氏、和光大学准教授の長尾洋子氏による文学講座のほか、富山県民謡越中八尾おわら保存会によるおわら出演、「朗読と音楽の夕べ」連携企画の朗読会を実施しました。

展示室入口付近に設置した体験コーナーは、林秋路の版木を使った絵はがきを作成することができるとあって、観覧者に大変好評でした。

展示風景　手前におわら風の盆のポスター、左手に版画を展示

展示風景　おわら風の盆を描いた直筆画のコーナー

林秋路の版木を使った絵はがき作り　体験コーナー

□関連行事

① 文学講座

開催日	講　師	演　題	参加者数
7月30日（日）	山下隆司氏（NPO法人 富山観光創造会議副理事長）	「林秋路とおわら観光の変遷」	34
8月20日（日）	林章一氏（林秋路氏ご長男）	「父 秋路の残したもの」	89
8月26日（土）	長尾洋子氏（和光大学准教授）	「林秋路とおわら保存会」	30

② おわら実演会

開催日	出演者	備考	参加者数
8月5日（土）	富山県民謡越中八尾おわら保存会	踊り方教室、輪踊り、 林秋路作のおわら唄の披露など	213
9月16日（土）	日比あゆみ（チューリップテレビアナウンサー）、 富山県民謡越中八尾おわら保存会	「朗読と音楽の夕べ」連携企画。 朗読作品：髙橋治『風の盆恋歌』	

③ワークショップ　「林 秋路の版木を使った絵はがき作り体験コーナー」

【開催日】会期中毎日

④スタンプラリー　（期間限定）

【開催日】 8月19日（土）～8月31日（木）

【備考】高志の国文学館と越中八尾観光会館（曳山展示館）の連携企画

⑤担当学芸員による展示解説

7月30日（日）、8月5日（土）、8月26日（土）、9月16日（土）

⑶開館５周年記念特別展　「宮本 輝 ― 人間のあたたかさと、生きる勇気と。」

会　　期／平成29年10月14日㈯～12月４日㈪
主　　催／高志の国文学館
共　　催／北日本新聞社
特別協力／宮本　輝
追手門学院大学附属図書館
宮本輝ミュージアム
担　　当／生田美秋（総括）　菅田智雄（主務）
大川原竜一（図録・クローズアップコーナー）
観覧者数／２，520人
出品点数／285点
印 刷 物／ポスターＡ１判　チラシＡ４判
図録Ａ５判

チラシ　表

チラシ　裏

趣旨・総括

本展では、宮本輝の作品世界の魅力を、「人間のあたたかさ」と「生きる勇気」をキーワードに、全館の大部分を使って紹介しました。

〈宮本輝が作家になるまで〉では、宮本輝が文学と出会うきっかけとなった井上靖『あすなろ物語』や、池上義一氏との出会いを紹介しました。〈川三部作〉では、「泥の河」「螢川」「道頓堀川」について、直筆原稿や初出雑誌を展示し、その作品世界の拡がりを見ていきました。〈短編の名作とエッセイ集・紀行・対談・アンソロジー〉では、短編小説の作品世界を直筆原稿や掲載誌挿絵原画などとともに紹介。〈長編の名作〉では、「錦繡」「青が散る」「優駿」「田園発 港行き自転車」など数編をピックアップし、その作品世界に迫りました。〈大河小説「流転の海」〉では、「流転の海」の作品世界を登場人物の相関図とともに味わえるようにしました。

企画展示室中央には、宮本輝の書斎を等身大パネルで再現し、愛用していた万年筆やインクなどとあわせて展示しました。また、宮本輝の作品から珠玉のフレーズをピックアップし、タペストリーで紹介しました。

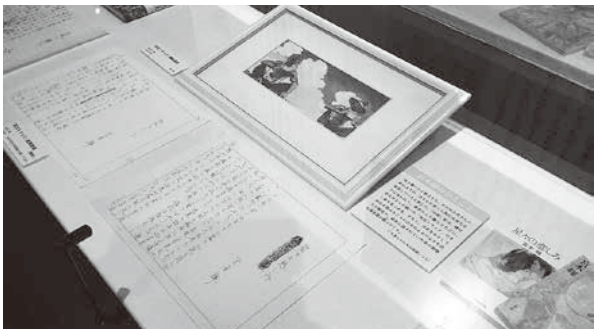
導入展示では、特別展開催に先立って募集した「わたしの好きな宮本輝作品―宮本輝新聞」（宮本輝作品についての推薦文）の受賞作品や「田園発 港行き自転車」の取材写真パネルを掲示。常設展示室のクローズアップコーナーでは、宮本輝と富山のつながりについて、新聞記事や取材写真などをもとに紹介しました。ライブラリーコーナーでは、エッセイ集『本をつんだ小舟』で紹介されている32編の作品を展示。あわせて、宮本輝へのメッセージも募集・掲示し、来館者が展示に参加できる工夫を試みました。

関連イベントとしては、開幕日に宮本輝ご本人と俳人の堀本裕樹氏による記念対談を開催したほか、北日本新聞社論説委員の大割範孝氏、法政大学の田中和生氏による講演会、連続読書会やDVD映画上映会（「道頓堀川」「流転の海」）を実施しました。

本展は、平成30年11月には姫路文学館でも開催され、当館初の他館への巡回となりました。

〈長編の名作〉コーナー

企画展示室　展示風景


直筆原稿等の展示

□関連イベント

①記念対談

開催日	講　師	演　題	参加者数
10月14日（土）	宮本 輝氏、堀本裕樹氏（俳人・文筆家）	「命の器　人生における出会いの不思議」	320

②連続講座

開催日	講　師	演　題	参加者数
10月22日（日）	大割範孝氏（北日本新聞社論説委員）	「シルクロード6,700㎞～『ひとたびはポプラに臥す』の旅路」	41
11月11日（土）	田中和生氏（法政大学文学部教授）	「富山を描いた宮本輝文学」	50

③連続読書会

開催日	講　師	演　題	参加者数
11月19日（日）	第一限 生田美秋（高志の国文学館事業部長） 第二限 菅田智雄（高志の国文学館学芸員）	「はじめての宮本 輝　短編小説教室」	各20
11月26日（日）	大川原竜一（高志の国文学館学芸員）	「はじめての宮本 輝　富山小説教室」	20

④ DVD 映画上映会

開催日	作　品	参加者数
11月 3 日（金・祝）	宮本 輝原作『道頓堀川』（配給：松竹、1982年）	46
11月23日（木・祝）	宮本 輝原作『流転の海』（制作：日本テレビ放送網、配給：東宝、1990年）	92

⑤担当学芸員による展示解説

10月22日（日）、11月 3 日（金・祝）、11月11日（土）、11月19日（日）、11月23日（木・祝）、11月26日（日）

⑷開館５周年記念企画展「竹久夢二　音楽を描く」

会　　期／平成29年12月16日㈯～
平成30年２月26日㈪
主　　催／高志の国文学館
特別協力／東亜薬品株式会社
協　　力／黒部市、高岡市立博物館
担当学芸員／小林加代子
観覧者数／２,507人
出品点数／285点
印 刷 物／ポスターＡ１判　チラシＡ４判
ガイドブックＡ４版

チラシ　表

ガイドブック

趣旨・総括

竹久夢二（1884－1934）は、大正期から昭和初期にかけて、歌曲を中心とする数多くの楽譜の表紙画を手がけました。夢二が描いた表紙画は、それぞれに色彩豊かで、画題、画風、技法、デザインいずれをとっても実に多様です。

当時、楽譜は、現在よりも手軽に音楽に親しめる手段のひとつでした。夢二自身の作詩で流行歌となった「宵待草」をはじめ、流行歌から、劇場で歌われたオペラやオペレッタの歌曲、小唄、民謡まで、和洋、新旧を問わず、古今東西の楽曲が、さかんに楽譜として出版され、多くの人に親しまれました。夢二は、こうした楽譜の表紙画を、和と洋、過去と現在の文化が急速に融合し変化する時代の音楽文化を映し出すように描いています。

今回の企画展では、東亜薬品株式会社より寄託を受けた竹久夢二作品を中心に、セノオ楽譜や中山晋平作曲全集など、夢二が描いた楽譜の表紙画約240点を紹介しました。あわせて、昭和初期のピアノや、蓄音機、レコード、ラジオなども展示し、新しいメディアが次々と登場する時代に、当時の人々が楽譜に収められた楽曲をどのように楽しんだのかを紹介しました。

会期中には、竹久夢二美術館学芸員石川桂子氏による文学講座、竹久夢二表紙画楽譜による音楽会（全３回）として、水林史氏、曽爾テラワキ氏、一守明子氏による大正時代のポップスコンサート、合唱団クール・ファミーユによる合唱コンサート、藤田千穂氏、藤井亜里沙氏によるヴァイオリン・ピアノコンサート、高岡市立博物館蔵の蓄音機による実演などを開催しました。

会期終了後の平成30年５月、東亜薬品株式会社より、今回の出品作品を含む竹久夢二作品481点の寄贈を受けました。

展示室概観

竹久夢二が表紙画を手がけたセノオ楽譜のコーナー

中山晋平民謡曲及び中山晋平作曲全集のコーナー

□関連行事

①文学講座

開催日	講　師	演　題	受講者数
2月3日(土)	石川　桂子 氏（竹久夢二美術館学芸員）	大正ロマンの画家・竹久夢二―その魅力と「セノオ楽譜」の仕事・見どころ	42

②竹久夢二表紙画楽譜による音楽会

開催日	内容・出演者	参加者数
12月16日(土)	大正時代のポップスコンサート 水林　史 氏（歌・マンドリン） 曽爾　テラワキ 氏（笛・カリンバ・ピアノ・編曲） 一守　明子 氏（アイリッシュハープ・フルート）	160
1月20日(土)	合唱コンサート 合唱団　クール・ファミーユ	140
2月17日(土)	ヴァイオリン・ピアノコンサート 藤田　千穂 氏（ヴァイオリン） 藤井　亜里沙 氏（ピアノ）	140

③映画ＤＶＤ上映会

開催日	作品名	参加者数
12月24日(日)	「唐人お吉」（日活太秦、1930年） 「東京行進曲」（日活太秦、1929年）	16
1月6日(土)		26
1月13日(土)		3
2月18日(日)		37

ＤＶＤ企画・制作・発売／株式会社デジタル・ミーム

④高志の国文学館友の会バスツアー

開催日	内　容	参加者数
2月12日 (月・振)	金沢湯涌夢二館、徳田秋聲記念館　等	30

⑤蓄音機の実演

12月16日(土)、12月17日(日)、12月22日(金)、12月23日(土・祝)、12月24日(日)、1月5日(金)、1月6日(土)、1月7日(日)、1月12日(金)、1月13日(土)、1月14日(日)、1月19日(金)、1月20日(土)、1月21日(日)、1月26日(金)、1月27日(土)、1月28日(日)、2月2日(金)、2月3日(土)、2月4日(日)、2月9日(金)、2月10日(土)、2月11日(日・祝)、2月16日(金)、2月17日(土)、2月18日(日)、2月23日(金)、2月24日(土)、2月25日(日)

高岡市立博物館蔵の蓄音機2種による実演

⑥担当学芸員による展示解説

12月24日(日)、1月6日(土)、1月13日(土)、2月18日(日)

⑸大伴家持生誕 1300 年記念企画展「歌人 大伴家持―現代と響き合う詩心」

会　　期／平成30年３月18日㈰～５月21日㈪
主　　催／高志の国文学館
後　　援／北日本新聞社、富山新聞社、
読売新聞北陸支社、ＮＨＫ富山放送局、
北日本放送、富山テレビ放送、
チューリップテレビ
担　　当／生田美秋（総括）　綿引香織（主務）
菅田智雄（副務）　山田優子（補佐）
観覧者数／552人（平成29年度中）
（全会期中は３,205人）
出品点数／152点
印 刷 物／ポスターＡ１判　チラシＡ４判（2種）
図録Ａ５判（187頁）

第一弾チラシ　表

第一弾チラシ　裏

第二弾チラシ　表

図録表紙

趣旨・総括

富山県の大伴家持生誕1300年記念事業の一環として開催する全３回の記念企画展のうち、第２回にあたる本年は、歌人としての家持に焦点を当てました。

大伴家持は『万葉集』に最多の歌を残した歌人です。家持の歌に見る、自然に対する鋭敏な感覚や、人間の孤独を見つめる深いまなざしは、千年以上昔に作られたものでありながら、現代も色あせない新鮮な叙情にあふれ、私たちの心に響いてきます。

本企画展では、「花」「自然」「心」「時間」という身近なテーマを切り口に家持の秀歌をとりあげ、そこから見えてくる家持独自の視点や美意識、関心のありかを探ることを目指しました。

導入展示では、10人の著名人による「わたしが選ぶ家持の歌」を、直筆コメントとともに紹介しました。また、高校生による家持の歌の書道パフォーマンス作品の展示や、中西進館長が歌人大伴家持について語る映像を上映しました。

展示室内では、家持の歌にあわせて、現代の写真や絵画、書、漫画、映像などを展示し、家持の歌のこころが視覚的にわかりやすく伝わるよう工夫しました。

また、家持の生きた時代の雰囲気を伝えるための演出として、植物染料により再現された伎楽衣装、雅楽器、正倉院風文様の織物などを展示しました。

最後に、歌人家持について知るためのコーナーを設け、家持が影響を受けた身近な歌人たちや書物、『万葉集』について、平安時代以降の家持像についても紹介しました。

なお、当館の新収蔵資料である『万葉集』巻十九断簡（鎌倉時代中期～後期頃）は、今回が初公開の機会となりました。

会期中には、染色家・染織史家の吉岡幸雄氏によるスペシャルトーク、当館の中西進館長による記念講演、大東文化大学教授の藏中しのぶ氏、作家で国文学者の林望氏による連続講座のほか、和同開珎の制作や万葉仮名を書くワークショップ、万葉衣装の着用体験も実施しました。展示室入口付近に設置した「わたしが好きな家持の歌」投票コーナーは、観覧者に大変好評でした。

『万葉集』巻十九断簡の展示

展示風景（写真、雅楽器、書 など）

展示風景（絵画、屏風、伎楽衣装 など）

□関連行事

①スペシャルトーク

開催日	講　師	演　題	参加者数
3月18日（日）	吉岡幸雄氏（染色家、染織史家）	「万葉の色と意匠」	85

②記念講演

開催日	講　師	演　題	参加者数
4月 1日（日）	中西 進（当館館長）	「歌人　大伴家持」	152

③連続講座

開催日	講　師	演　題	参加者数
4月15日（日）	藏中しのぶ氏（大東文化大学教授）	「大伴家持と聖武天皇」	83
4月22日（日）	林望氏（作家、国文学者）	「家持、千三百年の時を超えて」	126

④ワークショップ　和同開珎を作ろう

【開催日】 3月24日（土）、4月29日（日・祝）、5月6日（日）

⑤ワークショップ　万葉仮名を書いてみよう

【開催日】 4月28日（土）～5月6日（日）

⑥万葉衣装体験

【開催日】 5月4日（金・祝）、5月5日（土・祝）

⑦担当学芸員による展示解説

4月1日（日）、4月15日（日）、4月22日（日）

2. 資料概況

□資料数

		印刷物（書籍・雑誌・冊子等）	自筆資料				美術品	写真	映像・音響資料	調度品・愛用品	その他	計
			原稿	原画	書簡	色紙・短冊・軸・一枚もの、その他						
～H28年度	購入	13,502	130	42	222	35	3	35	403	1	116	14,489
	寄贈	34,789	780	124	1,675	2,113	168	947	446	61	237	41,340
	製作	3	13	10	5	14	9	1			2	57
	小計（A）	48,294	923	176	1,902	2,162	180	983	849	62	355	55,886
H29年度	購入	929	2		6	1	2	32	8			980
	寄贈	2,629	3		37	21	9	1	9	1		2,710
	製作		1			2	4					7
	小計（B）	3,558	6	0	43	24	15	33	17	1	0	3,697
～H28＋H29合計（A）＋（B）		51,852	929	176	1,945	2,186	195	1,016	866	63	355	59,583

□主な新収蔵資料

寄　贈

作者等	資料名
源氏鶏太	色紙「今日亦無事」
井上靖	色紙「私には正確なものだけが美しく見える」
洲の会	『洲』創刊号～38号（終刊号）
岡部文夫	個人宛封書・葉書（昭和40年11月18日消印～昭和63年7月2日消印）
岡部文夫	色紙「しろたへのあざやかにして水の上を飛ぶ鷺ひとつその影ひとつ」
岡部文夫	掛軸「層塔は高く立ちつつおのおのの屋根に積みたる雪のしづけさ」
辛夷社	『辛夷』第1巻第2号～第62巻第3号
低水會	『喜見城』創刊号～第38巻第11号
荒海発行所	『荒海』第1巻第1号（創刊号）～第19巻第1号
清流俳句会	『清流』創刊準備号～324号

購　入

作者等	資料名
牧　進	越中万葉絵画「堅香子の花」
—	『万葉集』巻十九断簡（伝俊頼筆『万葉集』切）
東宝	映画「流転の海」完成披露特別試写会案内状
東映セントラルフィルム	映画「泥の河」スチール写真
松竹	映画「道頓堀川」スチール写真
日活	映画「黒部の太陽」スチール写真
高島　高	『高島高詩選集　真理序説　鷹鳴山人山房開板』
編輯人：翁久允	『高志』第1巻第1号（創刊号）～第2巻第6号
俳優座映画放送	映画台本「錦繡」
瀧口修造	岡鹿之助宛封書・葉書（1953年5月9日消印、10月26日消印）
小寺菊子	中央公論社婦人公論編輯部宛葉書（昭和13年2月28日消印）
小寺菊子	中河幹子宛封書（昭和2年8月28日、9月26日付）
源氏鶏太	原稿「同期生（随筆）」
金尾梅の門	短冊「ゆく秋のわたつみ低く晴れにけり」
朝日新聞社	『コドモアサヒ』第5巻第1号～第6巻第12号

3. 教育・普及事業

平成29年度は、大伴家持生誕1300年記念事業として、世界のすぐれた詩人の業績を顕彰する大伴家持文学賞や高志の国詩歌賞を創設したほか、中高生に対する万葉講座、文学講座、講演会、さらにはライブラリーを活用した朗読と音楽イベントなど、多彩なイベントを開催した。

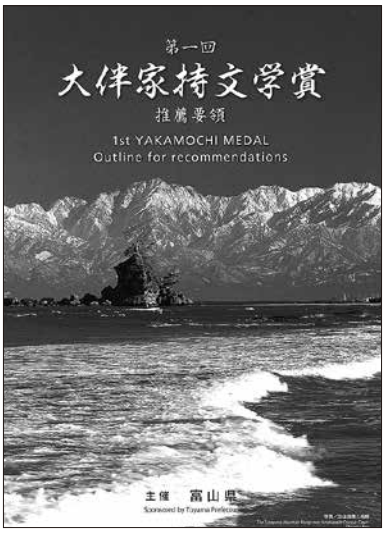
大伴家持生誕1300年記念事業

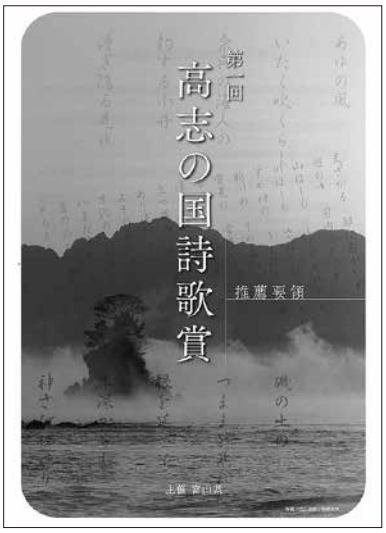
□第１回大伴家持文学賞及び第１回高志の国詩歌賞

富山県では、越中において数々の秀歌を生んだ大伴家持の生誕1300年を記念して、世界のすぐれた詩人の業績を顕彰する大伴家持文学賞及び富山ゆかりの詩歌を対象とした高志の国詩歌賞を創設した。

平成29年度は国内外へ募集要項を発信し、国内も含めて17の国と地域から94人の候補者を受け付けた。

その中から北アイルランドの詩人、マイケル・ロングリー氏を第１回大伴家持文学賞の候補者に決定した。また、第１回高志の国詩歌賞については、北海道在住の歌人、山田航氏に決定した。





□高校生のための平成万葉塾

県内の高校生に対して家持の普及活動を行うため、講演（６回）を実施。

開催日	演　題	講　師	会　場
7 / 5（水）	大伴家持と越中万葉	坂本信幸氏 （高岡市万葉歴史館館長）	滑川高等学校
7 /11（火）	大伴家持と越中の風土	多田一臣氏 （東京大学名誉教授）	砺波高等学校
7 /12（水）	大伴宿祢家持作歌 －射水川を泝る舟歌を聞く－	平舘英子氏 （日本女子大学名誉教授）	大門高等学校
9 / 4（月）	歌人・大伴家持－春苑桃李の花と樹下美人図－	辰巳正明氏 （國學院大學名誉教授）	高岡第一高等学校
9 /23（土・祝）	大伴家持と越中の風土	多田一臣氏 （東京大学名誉教授）	富山東高等学校
1 /17（水）	家持の詠む新川郡	平舘英子氏 （日本女子大学名誉教授）	上市高等学校

□平成の越中万葉－中学生短歌講座－

県内の中学生を対象に、富山県歌人連盟の方々を講師にお迎えし、「生活」・「自然」等をテーマに短歌を創作する授業を実施。

開催日	場　所
7 / 5（水）、7 /12（水）	黒部市立高志野中学校
9 /21（木）、9 /28（木）	氷見市立南部中学校

□大伴家持生誕1300年記念「家持の心のしらべ」

開催日／平成29年11月５日回
会　場／高志会館２階カルチャーホール
参加者／200名

平成30年の大伴家持生誕1300年に向けて、富山県民のみなさんに、大伴家持についての理解を深めていただくための講演と音楽の集い「家持の心のしらべ」を開催。

奈良大学文学部教授の上野誠氏による記念講演「越中から大和へ、大和から越中へ」の後、大谷祥子氏（箏）、山内彩氏（三絃）、黒川真理氏（箏）、豊明日美氏（笙）、吉田工山氏（尺八）による万葉邦楽アンサンブル「過去・現在・未来－万葉歌六首をそえて－」を開催し、大伴家持の歌に込められた想いやその意義について考えた。

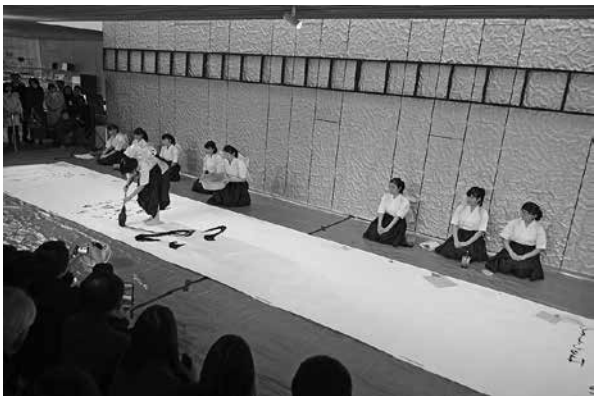
□全国大学国語国文学会連携企画講演会「日本海を望む詩心」

開催日／平成29年12月２日㈰
会　場／富山大学黒田講堂
参加者／450名

大伴家持生誕1300年記念事業として、富山大学で開催される全国大学国語国文学会第116回大会と連携し、大伴家持をテーマとした講演会「日本海を望む詩心」を開催した。作家の五木寛之氏による記念講演「家持と親鸞」、作家・作詞作曲家の新井満氏による歌唱及びトーク「音楽と文学の遭遇－もし大伴家持の和歌にメロディーをつけたなら－」を行った。

□書道パフォーマンス

伝統文化としての書の本質を磨きながら、新しい書の魅力を探求し、新たな文化を創造することを目指して、書道パフォーマンスを開催。今年度は、大伴家持が詠んだ歌をテーマに、富山県立富山中部高等学校及び富山県立富山高等学校の書道部がパフォーマンスを行った。



開催日	出　演	参加者数
1／6（土）	富山県立富山中部高等学校書道部	136
3／10（土）	富山県立富山高等学校書道部	128

□西村まさ彦プロデュース　大伴家持生誕1300年記念
和歌と朗読を楽しみ、童謡を歌い、日本語の美しさを知る集い≪小学生編≫

開催日／平成30年１月28日㈰
会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー
参加者／101名

平成30年１月28日（日）、富山県内の小学生が、富山県出身の俳優・西村まさ彦氏と朗読劇・合唱・紙芝居を披露する「和歌と朗読を楽しみ、童謡を歌い、日本語の美しさを知る集い《小学生編》」を開催した。

公演では、和歌の朗読、高岡市出身の室崎琴月が作曲した「夕日」、ふるさと富山をテーマとして作られた歌「ふるさとの空」の合唱、ウルトラ怪獣絵本シリーズの「ぼくらの星」の朗読が行われた。

その他のイベント

□観桜の集い2017in 高志の国文学館

開催日／平成29年４月９日㈰
会　場／高志の国文学館万葉の庭（特設ステージ）
参加者／１,134名

平成29年４月９日（日）、桜をめでながら春にちなんだ万葉集の歌の世界などを味わう「観桜の集い2017in 高志の国文学館」を開催。

万葉の庭に設けられた特設ステージにおいて、雅楽団体「洋遊会」（高岡市）による雅楽演奏に始まり、県内のテレビ・ラジオ局で活躍するアナウンサーによる朗読、富山県詩人協会会長池田瑛子氏による詩の朗読、和田朝子舞踊研究所と可西舞踊研究所による洋舞、藤間寿弥重氏による日舞など、様々な演目が披露された。石井知事、中西館長らによる万葉集の特別朗唱も行われ、最後は射水市出身の箏演奏家、黒川真理氏の演奏で締めくくった。

その他、高志の国文学館の研修室を利用している芸術文化団体による作品展示や、呈茶、いけばな展示、ます寿し販売が行われ、会場は多くの人で賑わった。

□高志プロジェクト

開催日／平成29年７月23日㈰
会　場／高志の国文学館研修室101

平成25年度より、富山県ゆかりの文学や郷土の研究を行うグループや個人を公募・選考し、優れた研究計画に対し奨励金を交付する「高志プロジェクト」を行っている。これは、富山県の風土や歴史、文化をより深く調査・研究し、発信することにより、郷土の文化や魅力を再認識し、次世代へ継承することを目的としたもので、平成29年度には次の２者が選ばれ、認定証交付式が開催された。あわせて前年度認定団体による研究成果発表会も行われた。

〔高志プロジェクト認定研究〕

	代表者氏名	研究課題名
1	山崎一佳氏（元公立学校教員）	石黒信由の和算学、実学に学ぶ
2	横山恭子氏（富山高等専門学校助教）	近世越中人のみた朝鮮通信使（鎖国時代の日朝交流と越中富山のかかわり）

□文芸サロン

日本ペンクラブ富山の会は、県民が深く文芸を愛し、さらに創作の歓びを求めるに至ることを期待して、広く県ゆかりの文芸人の協力を求めつつ、高志の国文学館において文芸サロンを開設。

主催は日本ペンクラブ富山の会、共催は高志の国文学館。日本ペンクラブ富山の会の会員および県ゆかりの文芸人が１名ずつ話題提供し、それに対して他の会員がコメント。その後、コメントをめぐって参加者と討論するという形で、平成28年度に引き続き開催。

開催日	話題提供者、課題図書	参加者数
7 /16(日)	吉田　泉氏、『スペイン断章－歴史の感興－』（岩波新書）	35
9 /17(日)	久泉迪雄氏、『中谷宇吉郎 随筆集』（岩波文庫）	30
12/17(日)	米田憲三氏、『或る少女の死まで』（岩波文庫）	35
3 /18(日)	池田瑛子氏、『新川和江 詩集』（ハルキ文庫）	48

□読書感想文サポート講座

開催日／平成29年７月29日㈯
会　場／高志の国文学館研修室101

「原稿用紙がうまらない」、「何を書けばいいかわからない」といった声にお応えするため、小学校中学年及び低学年を対象に、読書感想文の書き方講座を実施。

今回は、富山県教育委員会東部教育事務所指導主事の上田和則先生と富山大学人間発達科学部の学生の指導のもと、一人ひとりに丁寧に支援した。

講　座	対象図書	参加者数
小学校低学年向け講座	『なにがあってもずっといっしょ』金の星社	124
小学校中学年向け講座	『空にむかってともだち宣言』国土社	

■開館5周年記念特別講演会「詩歌の明日を求めて」

開催日／平成29年８月６日㈰
会　場／サンシップとやま
参加者／280名

高志の国文学館の開館５周年と、大伴家持文学賞・高志の国詩歌賞の創設等を記念し、詩歌の現在と今後の展望について考える特別講演会を開催した。

歌人の馬場あき子氏による基調講演及び、蜂飼耳氏（詩人）、藤井一乃氏（『現代詩手帖』編集長）、山田航氏（歌人）、小谷瑛輔氏（富山大学人文学部准教授）によるパネルディスカッションを実施した。

□第4回サブカルチャー講座

開催日／平成29年８月12日㈯、８月19日㈯
会　場／高志の国文学館研修室101

代々木アニメーション学院より講師を招聘して、アフレコチャレンジ教室及び液晶タブレット・コピック着彩教室を開催した。

アフレコチャレンジ教室では、講師の方のお手本の後、グループごとに分かれて配役や台本の読み合わせを行い、その後、実際の映像に合わせて吹き替えを行った。

液晶タブレット・コピック着彩教室では、液晶タブレットパソコンを使用してキャラクターの色塗りを体験した。

開催日	講　座	参加者数
8 /12(土)	アフレコチャレンジ教室	45
8 /19(土)	液晶タブレット・コピック着彩教室	30

□観月の集い2017in 高志の国文学館

開催日／平成29年10月４日㈬
会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー
参加者／246名

平成29年10月４日（水）、中秋の名月の日に、「観月の集い2017in 高志の国文学館」を開催。ステージでは、富山県宝生会による能楽「藤」序之舞が行われた後、野上聡子氏（ソプラノ）による声楽、中﨑圭子氏による朗読（ピアノ:奥田知絵氏）や、桐朋オーケストラ・アカデミーによる弦楽四重奏が行われ、聴衆を魅了した。

その他、会場では裏千家の中川宗亮先生による呈茶が振る舞われたほか、富山県華道連合会酒井和佳子先生によるいけばなの展示も行われた。

□朗読と音楽の夕べ

９月から11月にかけて、県内アナウンサーによる富山県ゆかりの文学作品などの朗読と、音楽演奏を組み合わせた「朗読と音楽の夕べ」を開催。

第１回では､富山市八尾を舞台の１つとした作品『風の盆恋歌』をチューリップテレビの日比あゆみアナウンサーが朗読した。

開催日	出演者	作　品	観覧者数
9 /16(土)	朗読：日比あゆみ氏（チューリップテレビ） 演奏・演舞：富山県民謡越中八尾おわら保存会	髙橋　治『風の盆恋歌』	173
10/ 6 (金)	朗読：柳川　明子氏（北日本放送） 演奏：四十谷隆司氏（ギター）	堀田　善衛 『日々の過ぎ方－ヨーロッパさまざま』	138
10/21(土)	朗読：青木栄美子氏（富山テレビ放送） 演奏：富田　　祥氏（チェロ） 浅井　隆宏氏（ピアノ）	夏目　漱石『夢十夜』	121
11/ 4 (土)	朗読：堀池　真緒氏（ＦＭとやま） 演奏：高田　愛子氏（ヴァイオリン）、 佐々木ゆき子氏（ピアノ）	宮本　輝『田園発　港行き自転車』	129
11/25(土)	朗読：橋爪　秀範氏（NHK 富山放送局） 演奏：中川　佳美氏（ピアノ）	新美　南吉『狐』ほか	131

□パネル展

会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

高志の国文学館では、ライブラリーコーナーにおいて富山県を舞台にした映画やアニメのパネル展を開催。パネル展では、映画で使用された台本（サイン入り）や出演者の色紙、映画紹介・ロケ地マップ・映画シーンのパネルなどを展示した。

（映画）

開催日／平成29年５月６日㈰～７月３日㈪
作品名　「追憶」

開催日／平成29年10月６日㈮～12月６日㈬
作品名　「ナラタージュ」

開催日／平成30年２月３日㈯～３月26日㈰
作品名　「羊の木」

（アニメ）

開催日／平成29年12月６日㈬～平成30年２月５日㈪
作品名　アニメ『サクラクエスト』による新たな取組みの特別展示

□平成29年度文学講座

平成29年度の文学講座は、「大学連携シリーズ」、「ゆかりの文学者シリーズ」及び「巨人の物語をひもとくシリーズ」を開催した。

大学連携シリーズ

開催日	演　題	講　師	受講者数
5 /20(土)	歴史を追う！人はどうやって巨大な仏像を鋳造したのか－中国三星堆の銅像から飛鳥・天平そして江戸まで－	三船温尚氏（富山大学芸術文化学部教授）	65
6 /17(土)	越中の学問と遊戯	磯部祐子氏（富山大学人文学部長・教授）	72
6 /24(土)	映画の解剖学－映画を批評的、分析的に観る－	藤田秀樹氏（富山大学人文学部教授）	55
7 / 8 (土)	村上春樹ファンタジーのイデオロギー	西田谷洋氏（富山大学人間発達科学部教授）	71

ゆかりの文学者シリーズ

開催日	演　題	講　師	受講者数
9 / 2 (土)	富山県美術館開館記念連携企画「詩人瀧口修造を読む」	林　浩平氏（恵泉女学園大学特任教授）	59
10/ 8 (日)	特別コレクション室「新資料・翁久允と竹久夢二」展示開始記念講演ならびに対談「異色の小説家・翁久允　－日本文壇における評価」	水野真理子氏（富山大学准教授） 逸見　久美氏（元聖徳大学教授）	68
10/21(土)	源氏鶏太が描いた「サラリーマン」	鈴木貴宇氏（東邦大学理学部教養科准教授）	51
12/10(日)	呉羽山の文学を訪ねる	久泉迪雄氏（富山県歌人連盟顧問）	60

巨人の物語をひもとくシリーズ

開催日	演　題	講　師	受講者数
9 /24(日)	富山県美術館開館記念連携企画「林忠正と19世紀末パリ・日本」	髙頭麻子氏（日本女子大学文学部教授）	60
11/12(日)	富山藩の漢学と広徳館の蔵書の行方－前田家の漢籍収集と越中国の出版文化	磯部　彰氏（東北大学名誉教授・文学博士）	53
11/18(土)	「富山の近代」を築いたパイオニア　藤井能三	田尻信壹氏（目白大学人間学部児童教育学科教授）	41
12/ 2 (土)	高峰譲吉が富山を愛したわけ	市川　徹氏（映画監督）	41

□「高志の国文学」情景作品コンクール

開催日／平成29年10月25日㈬～12月４日㈰
会　場／高志の国文学館エントランスロビー

このコンクールは、先人の喜び、悲しみ、悩み、感動などを伝える「高志の国文学」に触れ、感じた心情や情景を、文芸や美術、写真で表現したものを中学生・高校生を対象に募集した。今回は、応募のあった1,672点（文芸1,131点、美術140点、写真401点）のなかから、入賞した43点を展示した。

□室内楽フェスティバル2017

開催日／平成29年10月28日㈯
会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー
参加者／66名

平成29年10月28日（土）、高志の国文学館ライブラリーコーナーにおいて、「とやま室内楽フェスティバル2018ミュージアムコンサート」が開催された。

とやま室内楽フェスティバルは、若手室内楽演奏家を育成し、その成果を富山県の音楽芸術の振興に活かす、国内でも特色のある音楽祭で、その一環として当館や水墨美術館などでコンサートを開催している。

今回はサントリーホール室内楽アカデミーと連携し、その集中ワークショップ受講生で、オーディションにより選抜されたピアノ三重奏トリオ「デルアルテ」のコンサートを開催した。内野佑佳子（ヴァイオリン）、金子遥亮（チェロ）、久保山菜摘（ピアノ）で編成され、シューベルト「ピアノ三重奏曲第１番より第１楽章」、ショパン「ワルツ第２番、作品34-１」、ブラームス「ピアノ三重奏曲第２番より第１、第４楽章」ほかを演奏し、普段は文学に親しむ平静な空間で、上質で心地良い音楽を体感できる貴重な機会となった。

□文化を語る夕べ

文学、美術、音楽、映画などの各界の著名な講師をお招きし、文化について語り合う会を文学館内のレストランで開催した。

開催日	講師・演題	参加者数
11/ 5（日）	講師：上野　誠氏（奈良大学文学部教授、万葉研究者） 演題：「宴と笑いと」	22
11/ 8（水）	講師：小栗康平氏（映画監督、『泥の河』（1981年）監督） 演題：「ことばと映画－『泥の河』をめぐって」	20
11/10（金）	講師：池内　紀氏（ドイツ文学者・エッセイスト） 演題：「川の話、それから少し宮本輝さんのこと」	23
12/11（月）	講師：山内マリコ氏（小説家・エッセイスト） 演題：「新刊『メガネと放蕩娘』でまちづくりを考える」	24
2 /24（土）	講師：本木克英氏（映画監督） 演題：「映画と富山の不思議な関係」	24

□炉辺暖話

コーヒーを飲みながら、高志の国文学館の学芸員と設定されたテーマについて語り合う「高志の国文学館炉辺暖話」を開催。平成29年度は以下のテーマで全３回実施した。

開催日	担当・テーマ	参加者数
1 /14（日）	事業部長　生田美秋「絵本の絵を読む（2）」 『100万回生きたねこ』（佐野洋子作・絵、講談社） 『はっぴいさん』（荒井良二作、偕成社）を題材として	22
2 /11（日）	主任・学芸員　菅田智雄「宮本輝文学の魅力の秘密」 宮本輝のエッセイを題材として	6
3 /11（日）	事業課長　三津島淳「歌人のまなざし～ ひとりぼっちの豊かさ ～」 河野裕子、馬場あき子のエッセイを題材として	12

□第４回高校生による朗読会

開催日／平成30年１月21日㈰
会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー
出場校／富山県立富山高等学校放送部
富山県立富山商業高等学校広報部
富山県立富山北部高等学校放送部
富山県立桜井高等学校放送部
参加者／92名

平成30年１月21日（日）、高校生に日頃の練習の成果を発表いただくとともに、幅広い年代の方々に朗読の魅力と可能性を再発見していただくため、第４回高校生による朗読会を開催。各高校の放送部が、それぞれ下記の作品を朗読。

学校名	作品
富山県立富山高等学校放送部	「富山の童話」 日本児童文学者協会（リブリオ）より
富山県立富山商業高等学校広報部	「世界で一番の贈り物」（マイケルモーパーゴ）
富山県立富山北部高等学校放送部	「無精猫」（オリジナル脚本） 「人間的」（星　新一） 「紙しばい屋さん」（アレン・セイ）
富山県立桜井高等学校放送部	「ナイン」（井上ひさし）より「握手」

高志の国文学館長賞には、桜井高等学校が選ばれ、賞状、カップ、中西館長サイン入り著書『旅ことばの旅』が贈られた。

また、この日は、第70回「富山県少年少女自作童話大会」（北日本新聞社主催）受賞者による発表も行われ、最優秀賞を受賞した高岡市立西条小学校５年の上田佳音さんが「おばあちゃんからのおくりもの～カノンのばら～」、優秀賞を受賞した高岡市立川原小学校５年の氷見咲己歩さんが「焼きそば」、優良賞を受賞した射水市立歌の森小学校６年の釣匠吾くんが「『強くなる』って決めたんだ」を披露し、会場は温かい拍手に包まれた。

4. 高志の国文学館友の会

高志の国文学館友の会は、文学館の開館に先立つ平成24年６月18日、「文学館の事業に基盤をおいて、ふるさと文学を中心とする幅広い芸術文化に関する活動を通して、多くの人々が生涯学習の機会を持ち、会員相互に親睦を深めるとともに、文学館と連携し、文学館の活動を広く支援していくことを目的」として設立された。

平成29年度は、米原寛氏（元富山県［立山博物館］館長）特別講演会「自然に学ぶ－立山のこころ景観－」の共催をはじめ、企画展関連バスツアーや研修旅行、落合務シェフの料理＆トークショーの開催のほか、文学館が主催する各種イベントや講演会等への優先参加を行った。

会員数　637名（平成30年３月31日現在）

一般会員	485		
法人会員	16		
５年会員（個人）	118	５年会員（法人）	1
賛助会員（個人）	16	賛助会員（法人）	1

会　費

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
法人会員	20,000円
５年会員（個）	10,000円
５年会員（法）	100,000円
賛助会員	一口10,000円

特　典

・文学館ニュースや各種行事案内の配布
・文学館及び友の会主催行事への優先参加
・文学館が発行する図録等の割引購入
・文学館内レストランの飲み物代優待

平成29年度事業

・企画展関連バスツアー「竹久夢二　音楽を描く」
　2月12日（月・振）　参加者30名
　金沢湯涌夢二館、泉鏡花記念館など

・春の研修旅行
　「信州・甲州文学ゆかりの地を訪ねて」
　7月１日（金）～７月２日（土）参加者26名
　池波正太郎真田太平記館、山梨県立文学館など

・秋の研修旅行
　「東京ゆかりの文学と美術館巡り！」
　11月10日（金）～11月11日（土）参加者41名
　森鷗外記念館、漱石山房記念館など

・米原寛氏（元富山県［立山博物館］館長）
　特別講演会
　「自然に学ぶ－立山のこころ景観－」
　（高志の国文学館友の会、富山県［立山博物館］
　友の会、富山県水墨美術館友の会、
　富山近美友の会共催）
　2月４日　参加者80名

・落合シェフ料理＆トークショー
　10月７日　参加者113名
　12月１日　参加者125名
　２月９日　参加者130名

・講演会
　「食の時間旅行－翁久充と竹久夢二の豪華客船アメリカ旅行」～日本郵船の豪華客船のフランス料理と、日本における西洋料理への影響～
　２月10日（土）
　講師：早坂　勝氏　参加者38名

・夕食会
　翁久充と竹久夢二とともに
　～昭和初期豪華客船ディナーを味わう夕べ
　２月10日（土）富山電気ビルレストラン
　料理長：早坂　勝氏　参加者19名

理事会

７月３日（月）

Ⅲ　管理・運営

1．利用状況

(1)入館者数・観覧者数

区　分	会　期	日　数 (a)	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者計 (b)	1日 あたり (b/a)	
官人　大伴家持－困難な時代を生きた良心	H29.4.1～6.5 (H29.3.19～6.5)	58 (69)	21,623 (25,492)	4,217 (4,769)	4,288 (4,869)	8,505 (9,638)	147 (140)	※
上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉	H29.6.11～7.10	26	10,790	3,225	2,982	6,207	239	
おわらと林秋路－風の盆の画家	H29.7.23～9.25	56	19,249	3,049	3,081	6,130	109	
宮本輝－人間のあたたかさと、生きる勇気と	H29.10.14～12.4	44	16,359	2,520	2,769	5,289	120	
竹久夢二　音楽を描く	H29.12.16～ H30.2.26	58	10,962	2,507	2,293	4,800	83	
歌人　大伴家持－現代と響き合う詩心	H30.3.18～3. 3 1 (H30.3.18～6.5)	12 (55)	3,422 (17,621)	552 (3,205)	494 (3,088)	1,046 (6,293)	87 (114)	※
常設展のみ		54	38,023		1,372	1,372	25	
合　計		308	109,466	16,070	17,279	33,349	108	
休館日		57						

開館日数／308日　うち　臨時開館　5日（5月8日、5月9日、8月14日、11月6日、3月22日）
休館日数／57日
開館延長／3日　ライブラリー部門を19時まで（うち、1日は20時まで）延長
開館時間／9時30分から18時まで（観覧受付は17時30分まで）
休 館 日／火曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始（12月28日から1月3日）

※年度をまたぐ企画展については29年度分の実績（上段）と会期全体の実績（下段）を併記

⑵研修室の利用状況

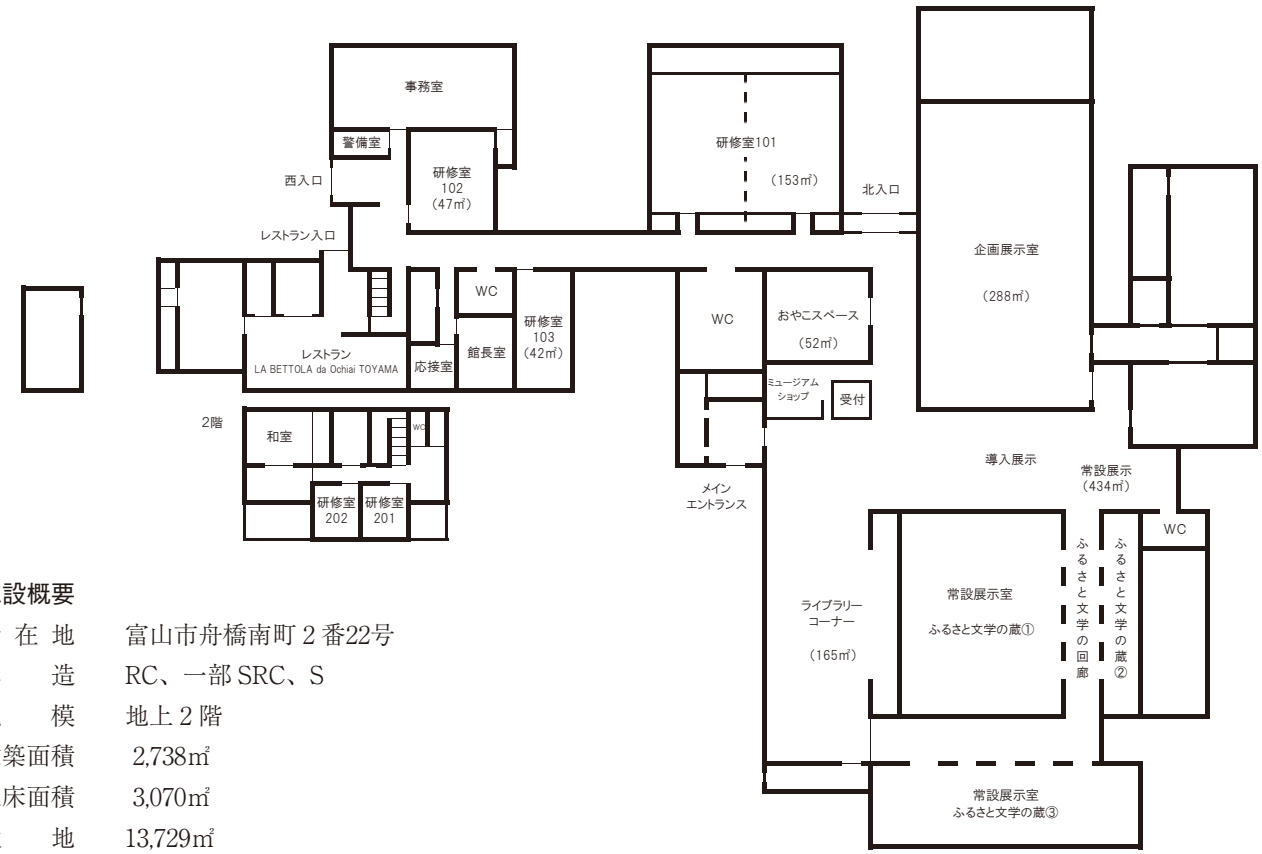
年	月	開館日数	休館日数	研修室101		研修室102		研修室103	
				件数	人数	件数	人数	件数	人数
29年	4月	26	4	22	485	15	70	38	265
	5月	27	4	23	556	36	144	51	321
	6月	26	4	14	396	17	45	37	294
	7月	27	4	28	837	17	78	41	337
	8月	26	5	25	470	22	82	37	273
	9月	26	4	20	282	10	54	33	278
	10月	26	5	25	766	19	109	40	265
	11月	25	5	19	645	22	100	43	303
	12月	24	7	11	316	18	80	39	280
30年	1月	24	7	24	480	15	63	31	211
	2月	24	4	31	1,241	19	73	36	405
	3月	27	4	28	519	11	38	47	325
合　計		308	57	270	6,993	221	936	473	3,557

年	月	研修室201		研修室202		和　室		合　計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
29年	4月	39	117	34	61	16	48	164	1,046
	5月	41	104	23	50	18	60	192	1,235
	6月	48	124	23	53	22	75	161	987
	7月	43	123	31	75	25	70	185	1,520
	8月	39	103	37	78	6	14	166	1,020
	9月	42	103	35	68	15	50	155	835
	10月	39	99	24	50	15	44	162	1,333
	11月	38	119	26	57	17	39	165	1,263
	12月	37	96	18	41	15	53	138	866
30年	1月	34	90	19	39	19	49	142	932
	2月	36	99	15	48	23	63	160	1,929
	3月	36	106	23	46	24	67	169	1,101
合　計		472	1,283	308	666	215	632	1,959	14,067

⑶年度別利用状況

区　分	開館日数	入館者	企画展観覧者	常設展観覧者	観覧者合　計	1　日当たり	研修室利用	
							件数	人数
平成24年度	222	121,211	21,653	30,668	52,321	236	1,364	11,807
平成25年度	307	126,470	25,017	30,431	55,448	181	1,337	12,592
平成26年度	305	115,866	16,232	19,705	35,937	118	1,650	14,875
平成27年度	305	107,391	13,133	16,341	29,474	97	1,592	13,196
平成28年度	308	108,138	13,839	16,260	30,099	98	1,817	14,104
平成29年度	308	109,466	16,070	17,279	33,349	108	1,959	14,067
合　計	1,755	688,542	105,944	130,684	236,628	135	9,719	80,641

2. 施設の概要



施設概要

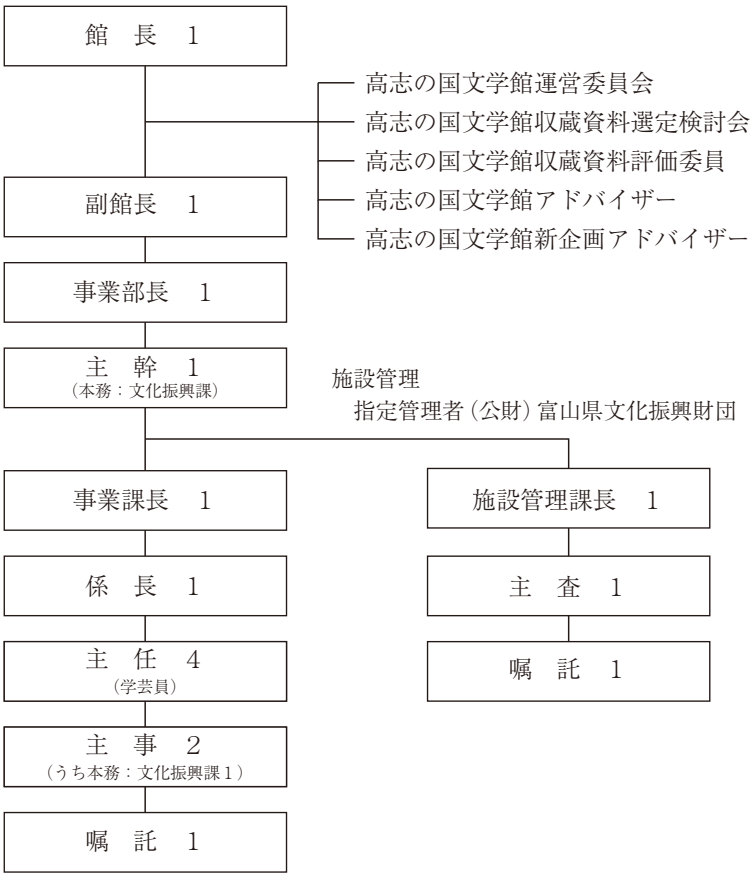
所 在 地	富山市舟橋南町２番22号
構　　造	RC、一部 SRC、S
規　　模	地上２階
建築面積	2,738㎡
延床面積	3,070㎡
敷　　地	13,729㎡
設　　計	シーラカンスアンドアソシエイツ
工事施工	日本海建興、酒井建設、辻建設、乃村工藝社　ほか
総 工 費	1,947,135,080円
工　　期	起工　平成23年７月４日
	竣工　平成24年７月３日

受賞等の記録

全建賞	一般社団法人全日本建設技術協会	平成25年６月28日
中部建築賞	中部建築賞協議会	平成25年12月11日
日本建築学会作品選奨	一般社団法人日本建築学会	平成26年５月30日
第44回富山県建築賞	富山県建築賞協議会	平成26年１月24日
JIA 優秀建築賞	公益社団法人日本建築家協会	平成27年４月24日
うるおい環境とやま賞	富山県	平成27年11月25日
ＢＳＣ賞	一般社団法人日本建設業連合会	平成28年11月24日

3. 機構

平成30年3月31日現在



□指定管理者の指定状況

平成24年７月～平成26年度　　（公財）富山県文化振興財団
平成27年度～平成31年度　　（公財）富山県文化振興財団

□職員名簿

職	氏　名	備　考
館　長	中　西　　進	
副館長	荻　布　佳　子	
事業部長	生　田　美　秋	
主　幹	中　村　　毅	本務　文化振興課主幹
事業課長	三津島　　淳	
係　長	中　田　　渉	兼務　文化振興課
主　任	菅　田　智　雄	学芸員
主　任	綿　引　香　織	学芸員
主　任	大川原　竜　一	学芸員
主　任	小　林　加代子	学芸員
主　事	関　谷　俊　輔	兼務　文化振興課
主　事	海　内　顕　弥	本務　文化振興課
嘱　託	山　田　優　子	
施設管理課長	冨　岡　准　二	
主　査	長　井　秀　年	
嘱　託	魚　屋　美智乃	

4. 組織

平成30年3月31日現在

□高志の国文学館運営委員会委員

氏　　名	役　職　等
上田　洋一	富山県歌人連盟会長
加藤　　淳	（一社）富山県芸術文化協会会長
木村　博明	富山県高等学校校長協会長
瀬川　信子	富山県ＰＴＡ連合会運営専務
瀬川　ゆき	世田谷文学館学芸部長
髙木　繁雄	富山県商工会議所連合会会長　（株）北陸銀行特別参与
多田　慎一	第一物産㈱相談役
立野　幸雄	射水市大島絵本館長
玉木　恵子	公募委員
飛田　久子	富山県婦人会理事
中井　敏郎	富山商工会議所常議員　東亜薬品（株）代表取締役社長
本江　　択	富山県商工会議所青年部連合会長
マリ　クリスティーヌ	富山大学客員特別研究員
八木　光昭	元聖徳大学教授
山﨑　　真	日本青年会議所富山ブロック協議会長

□高志の国文学館収蔵資料選定検討会委員

氏　　名	役　職　等
小松　晴彦	青山学院大学教授　大伴家持1300年記念事業専門家会議専門委員
久泉　迪雄	富山県歌人連盟顧問
山崎　一穎	全国文学館協議会会長
冷泉貴実子	冷泉家時雨亭文庫　常務理事

□高志の国文学館収蔵資料評価委員

氏　　名	役　職　等
青柳　恵介	古美術評論家
田坂　憲二	慶應義塾大学教授
名児耶　明	五島美術館副館長･大東急記念文庫副文庫長
柳原　正樹	京都国立近代美術館長・とやま美術政策顧問

□高志の国文学館アドバイザー

氏　　名	役　職　等
篠田　正浩	映画監督
滝田洋二郎	映画監督
藤子不二雄Ⓐ	漫画家

□高志の国文学館新企画アドバイザー

氏　　名	役　職　等
太田麻衣子	クリエイティブ・ディレクター
河合　　隆	有識者
高成麻畝子	ドラマプロデューサー
本木　克英	映画監督
菓子　　浩	ドラマプロデューサー
山内マリコ	作家

Ⅳ 資　　料

沿革

年　月　日	事　　項
平成24年７月６日	開館
７月６日	開館記念展「大伴家持と越中万葉―風土とこだまする家持の心」開催
７月15日	入館者1万人達成
８月８日	**秋篠宮同妃両殿下ご夫妻並びに佳子内親王殿下ご来館**
12月８日	開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代－小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道－」開催
平成25年２月３日	**入館者10万人達成**
３月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪－大自然に生きる母と子の物語－」開催
４月７日	写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」開催
５月26日	入館者15万人達成
７月７日	特別展「立山曼荼羅を文学する」開催
８月10日	特別展「辺見じゅんの世界」開催
10月10日	**入館者20万人達成**
10月18日	**高円宮妃殿下ご来館**
11月３日	中西進館長　文化勲章受章
11月17日	企画展「『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝－棟方志功の感応力」開催
12月14日	中西進館長　富山県特別栄誉賞授与式・文化勲章受章記念講演会　開催
平成26年３月20日	企画展「まんが家　藤子・Ｆ・不二雄のＳＦ（すこし・ふしぎ）」開催
４月６日	入館者25万人達成
４月26日	棟方志功未公開作品特別展示　開催
７月26日	企画展「風の盆　深奥の心をさぐる」開催
８月４日	**入館者30万人達成**
10月10日	ギャラリー展「竹久夢二展」開催
10月30日	企画展「川の文学－うつりゆく富山の歴史の中で－」開催
平成27年１月７日	ギャラリー展「「冷光文庫」展－富山におり立った「雪の女王」を訪ねて－」開催
１月28日	企画展「川の文学　美しきふるさと－富山の川をめぐる文学と美術の交響－」開催
３月13日	企画展「三禅定の旅－立山・白山・富士山をめぐる－」開催
５月20日	ギャラリー展「豊かなイマジネーション　妖怪がひそむ富山の民話」開催
５月29日	特別企画展「『田園発 港行き自転車』藤森兼明　挿絵原画展」開催
７月11日	企画展「あの日、青い空から－久世光彦の人間主義」開催
７月19日	**入館者40万人達成**
９月９日	ギャラリー展「「海」物語　憧れ・神秘・畏怖～海づくり大会によせて～」開催
10月18日	企画展「山の湯の詩情－田中冬二へのいざない」開催
平成28年１月23日	企画展「松本清張を魅惑した北陸－ミステリー文学でたどる－」開催
３月21日	企画展「夢二の旅－たまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」開催
６月３日	ギャラリー展「富山映画展－スクリーンの中の人と風景－」開催
７月３日	**入館者50万人達成**
７月９日	企画展「面白い箱！アニメづくりのスタジオの中へ」開催
10月29日	企画展「浅野総一郎－九転十起の生涯」開催
平成29年１月14日	企画展「知られざる作家の世界－書簡から直筆原稿、書画まで」開催
３月19日	企画展「官人 大伴家持－困難な時代を生きた良心」開催
５月29日	**天皇皇后両陛下ご視察**
６月11日	企画展「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉」開催
同日	**入館者60万人達成**
７月23日	企画展「おわらと林秋路－風の盆の画家」開催
10月14日	特別展「宮本輝－人間のあたたかさと、生きる勇気と。」開催
12月16日	企画展「竹久夢二　音楽を描く」開催
平成30年３月18日	企画展「歌人 大伴家持－現代と響き合う詩心」開催

V 関係法令

高志の国文学館条例

平成23年９月28日
富山県条例第41号
改正　平成24年６月29日条例第38号
平成26年３月26日条例第21号
平成28年３月25日条例第22号
平成30年３月26日条例第19号

高志の国文学館条例を公布する。

高志の国文学館条例

（趣旨）

第１条　この条例は、高志の国文学館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第２条　富山県の自然及び風土の中ではぐくまれた文学作品その他の文学関係資料を紹介し、文学に関する県民の知識を深め、教養の向上を図るとともに、県民自らが親しみ、学び、創造し、交流することができるよう、県民に文学を中心とする文化活動の場を提供し、もって教育、学術及び文化の振興並びに心豊かな地域社会の形成に寄与するため、高志の国文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

（位置）

第３条　文学館は、富山市に置く。

（事業）

第４条　文学館は、次に掲げる事業を行う。

⑴　文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者に関する資料（以下「文学資料」という。）を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。

⑵　文学資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、及び研修室等を設置してこれを利用させること。

⑶　文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。

⑷　文学資料に関する専門的な調査研究を行うこと。

⑸　文学資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

⑹　前各号に掲げるもののほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な事業

（指定管理者による管理）

第５条　知事は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の２第３項の規定により、法人その他の団体であって知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に文学館の管理を行わせるものとする。

（指定管理者が行う業務）

第６条　前条の規定により指定管理者に行わせる管理の業務は、次に掲げる業務とする。

⑴　文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務

⑵　第13条第１項の規定による専用使用の承認に関する業務

⑶　第15条第１項に規定する使用料の徴収に関する業務

⑷　その他文学館の管理に関して知事が必要と認める業務

（休館日）

第７条　文学館の休館日は、次に掲げる日とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、休館日以外の日に休館し、又は休館日に開館することができる。

⑴　火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる場合を除く。）

⑵　休日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日に当たる場合は、その日後においてその日に最も近いこれらの日以外の日）

⑶　12月29日から翌年の１月３日までの日

（開館時間）

第８条　文学館の開館時間は、午前９時30分から午後６時までとする。ただし、研修室及び和室の開館時間については午前９時30分から午後９時まで、駐車場の開館時間については午前９時から午後９時30分までとする。

２　前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

（平24条例38・一部改正）

（入館の拒否及び制限）

第９条　指定管理者は、文学館に入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒否することができる。

⑴　他の入館者に迷惑となる行為をするおそれがあるとき。

⑵　施設、設備又は文学資料（次条第１項第２号において「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するおそれがあるとき。

２　指定管理者は、文学館の管理上必要があると認めるときは、入館を制限することができる。

（遵守事項等）

第10条　文学館に入館した者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

⑴　他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。

⑵　施設等を汚損し、又は損傷しないこと。

⑶　指定された場所以外の場所で喫煙又は飲食をしないこと。

⑷　その他知事が特に指示した事項

２　知事は、文学館に入館した者が前項の規定に違反したときは、その者に退館を命ずることができる。

（常設展示観覧料及び企画展示観覧料）

第11条　常設展示室において展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第１に定める金額の常設展示観覧料を納めなければならない。ただし、企画展示観覧料を納める者は、この限りでない。

２　企画展示室において特別に展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第１に定める金額の企画展示観覧料を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（特別観覧）

第12条　文学館に展示し、又は保管している文学資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

２　前項の承認には、文学資料の管理上必要な条件を付することができる。

３　第１項の承認を受けた者は、別表第１に定める金額の特別観覧料を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（専用使用の承認等）

第13条　文学館の施設のうち別表第１に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。承認を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

２　指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が第９条第１項各号のいずれかに該当すると認めるとき、その他文学館の設置の目的を達成するについて不適当と認めるときは、前項の承認をしないものとする。

３　第１項の承認には、文学館の管理上必要な条件を付することができる。

（平24条例38・一部改正）

（施設使用料及び駐車料金）

第14条　前条第１項の承認を受けた者（以下「専用使用者」という。）は別表第１に定める金額の施設使用料を、駐車場を使用する者は別表第２に定める金額の駐車料金を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（使用料の徴収方法）

第15条　常設展示観覧料、企画展示観覧料及び特別観覧料並びに施設使用料及び駐車料金（以下「使用料」という。）は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難い場合においては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

２　使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（平24条例38・一部改正）

（使用料の減免）

第16条　知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

（使用料の還付）

第17条　既に徴収した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（専用使用の承認の取消し等）

第18条　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第13条第１項の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

⑴　専用使用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

⑵　専用使用者が偽りその他不正の手段により第13条第１項の承認を受けた事実が明らかとなったとき。

⑶　専用使用者が第13条第３項の規定による承認の条件に違反したとき。

⑷　その他文学館の管理上特に支障があると認められるとき。

（高志の国文学館運営委員会）

第19条　文学館に高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会は、文学館の運営に関し知事の諮問に応ずるとともに、知事に対し意見を述べるものとする。

第20条　委員会は、委員20人以内で組織する。

２　委員の任期は、２年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

３　委員は、再任されることができる。

第21条　委員会に、委員長及び副委員長１人を置く。

２　委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

３　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（規則への委任）

第22条　この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附　則

（施行期日）

１　この条例は、平成23年10月１日から施行する。ただし、第５条から第21条まで、附則第２項及び別表第１の規定は、規則で定める日から施行する。

（平成24年規則第40号で附則第１項ただし書に規定する規定は、平成24年７月６日から施行）

（平24条例38・一部改正）

（施設使用料の特例）

２　前項の規則で定める日から起算して２年を経過する日

までの間における別表第１の４の規定の適用については、同表中「4,350円」とあるのは「2,900円」と、「860円」とあるのは「570円」と、「3,890円」とあるのは「2,590円」と、「770円」とあるのは「510円」と、「1,390円」とあるのは「930円」と、「280円」とあるのは「190円」とする。

（平24条例38・平26条例21・一部改正）

附　則（平成24年条例第38号）

（施行期日）

1　この条例は、平成24年７月６日から施行する。

（経過措置）

2　この条例の施行の日から平成25年３月31日までの間における第６条の規定の適用については、同条第１号中「施設」とあるのは「施設（駐車場を除く。）」と、同条第３号中「使用料」とあるのは「使用料（駐車料金を除く。）」とする。

附　則（平成26年条例第21号）抄

（施行期日）

1　この条例は、平成26年４月１日から施行する。

（高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置）

3　この条例の施行の際現に第８条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第８条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第１（第11条、第12条、第13条、第14条関係）

（平24条例38・旧別表・一部改正、平26条例21・一部改正、平30条例19・一部改正）

1　常設展示観覧料

区　分	金額（1人1回につき）
個人	200円
20人以上の団体	160円

備考　小学校の児童、中学校の生徒、高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者に係る常設展示観覧料は、無料とする。

2　企画展示観覧料

１人１回につき1,500円の範囲内で知事が定める金額

3　特別観覧料

１回１点につき4,100円の範囲内で知事が定める金額

4　施設使用料

区　分		使用時間３時間までの金額	超過時間１時間の金額
研修室１	全部使用	14,160円	3,540円
	２分の１使用	7,040円	1,760円
研修室２		4,350円	860円
研修室３		3,890円	770円
研修室４		1,390円	280円
研修室５		1,390円	280円
和室		1,670円	330円
附属設備		実費を勘案して知事が定める額	

備考

1　使用時間１時間未満の端数は、１時間として計算する。

2　使用時間を短縮した場合においても、施設使用料は、減額しない。

別表第２（第14条関係）

（平24条例38・追加）

種　別	単　位	金　額
基本料金	入場した時から１時間までにつき１台	320円
加算料金	入場した時から１時間を超える時間30分までごとにつき１台	110円

高志の国文学館条例施行規則

平成24年７月５日
富山県規則第43号
改正　平成28年３月31日規則第32号

高志の国文学館条例施行規則を次のように定め、公布する。

高志の国文学館条例施行規則

（趣旨）

第１条　この規則は、高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（入室時間）

第２条　高志の国文学館（以下「文学館」という。）の常設展示室及び企画展示室に入室できる時間は、午前９時30分から午後５時30分までとする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

（特別観覧の承認申請）

第３条　条例第12条第１項の規定により文学館に展示し、又は保管している文学資料（条例第４条第１号に規定する文学資料をいう。第６条及び第９条において同じ。）の模写、模造、撮影等（以下この条において「特別観覧」という。）の承認を受けようとする者は、特別観覧をしようとする日の７日前までに、高志の国文学館文学資料特別観覧承認申請書（様式第１号）を知事に提出するものとする。

（専用使用の承認申請）

第４条　条例第13条第１項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けようとする者は、高志の国文学館施設専用使用承認申請書（様式第２号）を指定管理者に提出するものとする。

２　前項の申請書は、専用して使用しようとする日（次条第１項において「専用使用日」という。）の３月前から前日までの間に提出するものとする。ただし、指定管理者が文学館の施設の使用に支障がないと認めるときは、この限りでない。

（専用使用の変更）

第５条　条例第13条第１項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けた者（次項及び第８条において「専用使用者」という。）は、専用使用日を変更しようとするときは、専用使用日の前日までに指定管理者の承認を受けるものとする。

２　専用使用者は、やむを得ない理由により当該承認に係る時間を超えて文学館の施設を使用する必要があるときは、あらかじめ指定管理者の承認を受けるものとする。

（駐車場を使用できる自動車）

（観覧料の減免）

第６条　条例第16条の規定により常設展示観覧料又は企画展示観覧料（以下この条において「観覧料」という。）を減免することができる場合及びその場合における減免の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

⑴　条例別表第１の１の表の備考に規定する者又は幼稚園の幼児の引率者が教育課程に基づく教育活動又は社会教育関係団体の教育活動として、常設展示室において展示している文学資料又は企画展示室において特別に展示している文学資料（以下この項において「常設展示等」という。）を観覧する場合　観覧料の全額

⑵　児童福祉法（昭和22年法律第164号）第７条第１項に規定する児童福祉施設に入所し、又は通所している者及びこれらの引率者が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑶　身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第４項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人（当該交付を受けた者１人につき１人に限る。以下この項において同じ。）が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑷　療育手帳制度について（昭和48年９月27日付け厚生省発児第156号厚生事務次官通知）に基づき療育手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑸　精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第２項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑹　70歳以上の者が常設展示室において展示している文学資料を観覧する場合　常設展示観覧料の全額

⑺　前各号に掲げるもののほか、知事が特別の理由があると認める場合　知事が必要と認める額

２　前項第１号又は第２号に掲げる場合における観覧料の減免は高志の国文学館観覧料減免申請書（様式第３号）を知事に提出することにより、同項第３号から第５号までに掲げる場合における観覧料の減免は身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の確認により、同項第６号に掲げる場合における常設展示観覧料の減免は同号に該当することを証するに足りる書類の確認により、同項第７号に掲げる場合における観覧料の減免は別に定めるところにより行うものとする。

第７条　文学館の駐車場を使用することができる自動車は、道路交通法（昭和35年法律第105号）第３条の普通自動車（積載物又は取付物を含めて、長さ５メートル以下、幅２メートル以下、高さ2.2メートル以下のもの

に限る。）とする。

（原状回復及び点検）

第８条　専用使用者は、その使用を終えたときは、直ちに施設及び設備を原状に復するとともに、指定管理者の点検を受けるものとする。

（施設等の汚損又は損傷の届出）

第９条　文学館の入館者は、施設、設備又は文学資料を汚損し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出て、その指示に従うものとする。

（高志の国文学館運営委員会）

第10条　高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）は、委員長が招集する。

２　委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

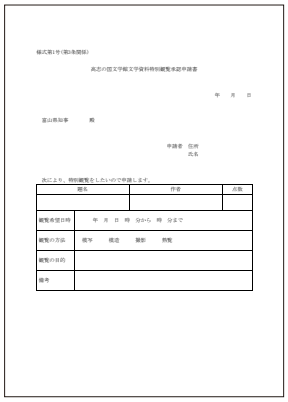
（細則）

第11条　この規則に定めるもののほか、文学館の管理及び運営に関し必要な事項は、知事が定める。

附　則

この規則は、平成24年７月６日から施行する。

様式第１号（第３条関係）



様式第１号（第3条関係）

高志の国文学館文学資料特別閲覧承認申請書

年　月　日

富山県知事　　殿

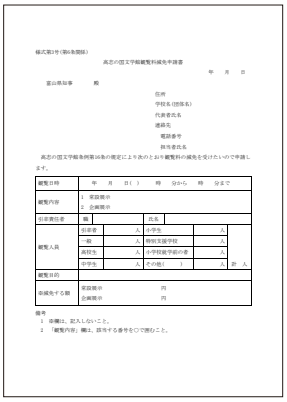
申請者　住所
氏名

決により、特別閲覧をしたいので申請します。

題名	作者	点数

閲覧希望日時	年　月　日　時　分から　時　分まで
閲覧の方法	模写　模造　撮影　熟覧
閲覧の目的	
備考	

様式第３号（第６条関係）



様式第3号（第6条関係）

高志の国文学館閲覧料減免申請書

年　月　日

富山県知事　　殿

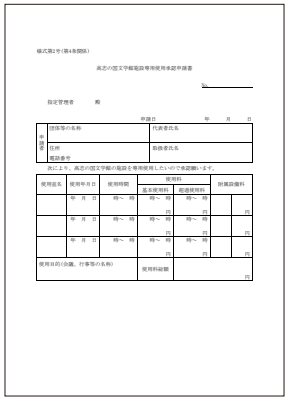
住所
学校名（団体名）
代表者氏名
連絡先
電話番号
担当者氏名

高志の国文学館条例第16条の規定により次のとおり閲覧料の減免を受けたいので申請します。

閲覧日時	年　月　日（　）　時　分から　時　分まで					
閲覧内容	1　常設展示 2　企画展示					
引率責任者	職		氏名			
閲覧人員	引率者	人	小学生	人		
	一般	人	特別支援学校	人		
	高校生	人	小学校就学前の者	人		
	中学生	人	その他（　）	人	計	人
閲覧目的						
免減免する額	常設展示	円				
	企画展示	円				

備考
１　申請は、記入しないこと。
２　「閲覧内容」欄は、該当する番号を○で囲むこと。

様式第２号（第４条関係）



様式第2号（第4条関係）

高志の国文学館電設専用使用承認申請書

No.

指定管理者　　殿

申請日　　年　　月　　日

申請者	団体等の名称	代表者氏名	
	住所 電話番号	担当者氏名	

次により、高志の国文学館の施設を専用使用したいので承認願います。

使用室名	使用年月日	使用時間	使用料			附属設備料	
			基本使用料	超過使用料			
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円	円		円
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円	円		円
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円	円		円
使用目的（会議、行事等の名称）			使用料総額		円		

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

平成24年７月５日
富山県訓令第10号

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程を次のように定め、公表する。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

（趣旨）

第１条　この訓令は、県職員及び県費負担教職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例（昭和26年富山県条例第73号）第４条第１項及び富山県職員の勤務時間に関する規程（昭和27年富山県訓令第１号）第３条の規定に基づき、高志の国文学館の職員（知事の指定する者を除く。以下「職員」という。）の勤務時間に関し必要な事項を定めるものとする。

（勤務時間）

第２条　職員の勤務時間は、午前８時30分から午後５時15分までとする。

２　高志の国文学館長（以下「館長」という。）は、業務の状況により必要があると認めるときは、勤務時間を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

（週休日及び勤務時間の割振り）

第３条　館長は、職員の週休日を日曜日及び土曜日以外の日とすることができる。

２　職員の勤務時間の割振りは、館長が定める。

（休憩時間）

第４条　職員の休憩時間は、１時間とし、館長が勤務時間の途中に置く。

附　則

この訓令は、平成24年７月６日から施行する。

高志の国文学館の使用料の額について

平成24年７月５日
富山県告示第317号
改正 平成26年３月26日告示第148号

高志の国文学館の使用料の額について

高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号）別表第１の４の表の知事が定める額は、次のとおりとし、平成24年７月６日から施行する。

品　名	単　位	金　額
ビデオプロジェクター（スクリーン付）	1式	2,930 円
拡声装置（マイク付）	1式	2,490 円

備考　この表に掲げる金額は使用時間３時間についての額とし、使用時間３時間未満の端数は３時間として計算する。

改正文（平成26年告示第148号）抄

平成26年４月１日から施行する。

平成29年度 高志の国文学館 年報

平成31年２月28日発行
編　集　高志の国文学館
富山県富山市舟橋南町2-22
TEL 076-431-5492
印　刷　北日本印刷株式会社
発　行　高志の国文学館

※許可なく転載、複製することを禁じます。